

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500079		
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム恵寿式番館		
所在地	岐阜県中津川市苗木4618-96		
自己評価作成日	平成28年2月26日	評価結果市町村受理日	平成29年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2191500079-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2191500079-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵寿式番館では、たとえ認知症になったとしても最期まで「人が人として生きていく」上で、その方の人生・大切にしている事、大事な人、などを受け止めると同時にわれわれ自身がどのようにして入居者様に受け入れられるかを常に考え、喜び、楽しみ、苦しみを共感し合い、その上で「恵寿」という「もう一つの家」で一緒に暮らす事を目指します。また、スタッフに関しても法人独自の研修を取り組み、「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を目標とし、より良いケアを目指し取り組んでいます。地域との交流に加えて、認知症と言う病気を理解していただける働きかけを積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、経験者を含む4名の新入社員を採用し、最初の心得として、「利用者の安心・安全」を第一に、信頼関係づくりに取り組んでいる。さらに、2週間に1回の職員会議を定例化し、介護の基本(7原則)を学び、支援の経過を振り返りながら、質の高いサービスを提供している。認知症ケアにおいて、困難な課題であっても、利用者の行動に寄り添い、想いを受け止めながら、尊厳を守り、その人らしい生活ができるよう支えている。管理者・職員は、連帯感を強固にして、共に働きがいのある職場環境を築きながら、様々な課題について話し合い、利用者サービスの向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念でもある「尊厳のあるその人らしい生活」が送れるよう常に念頭におきケアの7原則を心がけている。	理念は分かりやすい文言で、玄関や共用の間の目立つ位置に掲示をし、日々確認をしている。利用者が、住み慣れた地域の中で、その人らしい穏やかな生活が送れるよう、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の行事で祭に出来る限り参加させていただいている。	町内会員として会議に出席し、事業所の役割を発信している。近くの保育園児を納涼祭に招いたり、地元の祭りや三世代交流イベントに参加している。近所からは、栗の季節になると、落ち栗の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議で入居者様の情報をお伝えし施設状況を報告している。 施設主催の納涼祭をポスターでご案内し参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で施設状況、施設の取り組みについて報告を行っている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、近況の報告に次いで、多様な意見を交わしている。夜勤帯の職員確保、事故対策、家族との意思疎通について等を話し合い、サービスの向上に反映させている。	運営推進会議には、家族が参加しやすい環境づくりに期待をしたい。また、出席案内は、全家族に通知することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で日ごろの事業所の事情やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市主催の事業者部会や、ケアマネジャー会議に参加している。利用者の生活課題や成年後見制度等で相談をしたり、防災や防犯対策でも助言を得ている。市の介護相談員は、隔月に訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないと言う事で研修をし理解を深めている。 平成28年8月以後の対策で1か月行っていたがそれ以降は行っていない。	身体や精神的にも拘束しないケアを実践している。安全上、止むを得ない場合は、家族の理解と同意を得て、最小の処置に留めている。玄関の鍵は掛けず、センサーで安全を確認しながら、職員は、外へ出たい人の思いに寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い意識を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度について研修に参加する事はあまりないが事業所に成年後見制度を利用されている方がいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容の説明を行い理解と納得をして頂けるように努めその後も疑問があれば連絡をいただけるようお話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時やお電話でご意見やご希望をうかがい運営推進会議や職員連絡ノートで伝えている。	利用者の意見は、日々の暮らしの中で聴き、家族の意見や要望は、面会時や電話で把握をしている。利用者と家族の意見を、運営推進会議や職員会議で取り上げて話し合い、その結果を、事業運営に反映させている。	利用者の暮らしの様子や、提供しているサービス内容が、家族に分かりやすく伝わるよう、ホーム便りの復活を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員には責任を持って業務をしてもらい、職員からはその都度、意見要望を出してもらっている。	職員から意見を聞くため、月に2回の会議を開催している。夜勤帯勤務の負担軽減や勤務調整、若年性認知症ケアの課題、口腔ケアの徹底、業務の責任分担などを話し合い、それらをサービスの改善や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境であるよう、面談を行ったり、個々の能力を引き出し生かせるように努めている。 又、職員の意見が日々の業務に反映できる環境条件になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で研修を行ったり、外部研修に参加する機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、グループホーム部会の勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ずご本人と面談を行いご本人の気持ちや要望の聞き取りを行っている。職員はご本人との関係作りを積極的に行い、ご本人が安心できる雰囲気作りをし不安を取り除くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報は基本情報シートを活用し書き留めている。 又、面会時や電話でも日ごろの様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には問題を見極めケアマネージャーと連携しながら他のサービスの利用の可能性について情報交換を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に食事をしたり作業をするなどお互い支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	早めに連絡を頂きながら面会、外出等支援をし日ごろのご様子をご報告させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が利用してきた美容院や友達の面会しながら関係が途切れないように支援に努めている。	買い物は、できる限り馴染みの店を利用し、美容院もなじみである。季節の花見は、利用者の思い出の場所へ出かけ、地元恒例のイベントにも参加をしている。同地区の苗木城跡と資料館へ、ドライブを兼ねて外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状を見極め職員が利用者様同士の関係をし利用者様同士が支え合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は両者様の状況に合わせてご家族と連携をとるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様ひとりひとりの生活暦を把握しご家族様にも伺うようにしご本人の希望や意向も把握するように努めている。	入居時のアセスメントに加え、日頃の言動や個別ケアの際の会話からも、暮らし方の希望や思いを把握するよう努めている。意思表示が困難な人は、表情から汲み取ったり、家族からも情報を得て、本人が出来ることを一緒に探し、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からご本人の生活歴や環境の情報収集に努め入居後もご本人からの情報を随時把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を利用者様個々に把握し生活の様子を記録し申し送り、職員全員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	暮らしていく生活の中でご本人の表情や言動状態の把握に努め関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデアを出しながら現状に即した介護計画を作成している	家族の意向は、面会時に確認している。さらに、サービス担当者会議で、職員の意見や気づき、モニタリング結果を検討し、介護計画を作成している。体調の維持管理と共に、不安のない生活が送れるよう計画づくりを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを作成したり個人記録に記入し利用者様の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況や思いを汲み取って状況変化に対応できるよう、利用者様のニーズに応えることが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れはないが、ご本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活を楽しむ事が出来るよう支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関の先生に利用者様の身体状態を把握していただき通院には職員が同行している。又ご本人の馴染みの医師による継続的な治療が受けられるようご本人・ご家族と相談し希望の治療が受けられるよう支援している。	利用者は、入居前のかかりつけ医を継続し、協力医への受診は、職員が同行している。専門科医へは、家族と共に職員が同行し、利用者の症状を伝えている。体調不良や急変時の対応マニュアルを整え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師が交替で勤務しており利用者様の身体状況をみている。介護職・看護職が連携し情報交換をし相談しながら一人ひとりの健康状態を保つよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の現状と今後予測できる状況について医師と相談している。また入院中は担当医師・看護師に状況を確認している。退院時はソーシャルワーカーと話し合い今後の支援方法を検討させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で出来る事を医師・ご家族に理解していただき、状態によっては他医療機関とも連携を取るようにしている。	重度化については、食事の摂取ができるまでをホームでの生活の限界とし、現在は、終末期の支援を行っていない。段階的に状態に応じて、家族・医師・事業所と話し合い、医療機関と連携し、安心して移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生に備えそれぞれに対応できるマニュアルを用意し、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同訓練には参加できないので、施設独自の訓練を行い災害時の対応を意識している。	火災や地震を想定した自主訓練を実施し、初期消火・通報・避難誘導等を、夜間対応も兼ねて行っている。避難場所へのルート、地域との協力体制を確認し、備蓄や防災用品、災害マニュアルも整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時は大きな声で声かけをしないようにし、トイレや居室でパット交換を行う際は扉を閉めている。	言葉かけは、常に利用者を目線を合わせ、ゆっくりと低めのトーンで語りかけている。身体介助の場面では、羞恥心に配慮をし、利用者が安心感を持てるように、また、入室の際は、プライバシーに配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選ぶ事が出来るときは選んで頂き、そうでなくても表情・動きで把握出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の方や職員がご本人の希望を聞きながらカットし、お洋服はご家族の方がご本人の好みそうなものを用意してくださっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から好きなもの、食べたいものを聞き、献立に取り入れ一緒に食事をしている。	献立には、利用者の好きな食べ物を出来るだけ取り入れて、利用者も準備や片づけなどを手伝っている。対面式の台所から、調理の匂いがリビング全体に漂っている。利用者と職員が、会話を楽しみながら一緒に食べ、家庭的な雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量。食事形態を把握し食事制限にも注意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様自ら歯磨きされるときは見守りをし、義歯をお預かりし洗浄する方もいらっしゃる。歯科衛生士による口腔ケア、月に一回の歯科往診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄をするようにしたい。パット等の使用量を減らすように支援している。	個々の排泄パターンに応じ、トイレでの排泄を基本に支援をしている。自立度の高い人には、機能の維持と習慣化の支援に努めている。昼夜とも、その人の状態に合ったパッドを選択し、失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、食べ物も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はだいたい決まっているがご本人が希望されるときはなるべく対応している。	入浴の回数や時間帯は、本人の希望に応じて柔軟に支援をしている。汚染があれば、部分洗浄を行い、季節によってはシャワー浴に替えている。入浴を拒む利用者には、気分転換を工夫し、楽しい入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でもご本人が休みたいときに居室で休んだり、リビングでうとうとしたりして、体調に合わせて声かけをさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬内容を把握しており、服薬マニュアルを作成し、その人にあつた方法で内服していただいている。分からない事は看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ひとりひとりの生活歴や趣味を生かして生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で散歩や買い物に行けるように支援している。	職員と共に、地域のイベントや道の駅等に、ドライブを兼ねて出かけたり、周辺の散歩や買い物に、希望者で出かけている。季節の花見や紅葉狩りを年間行事とし、普段行けない所へは、家族の協力を得て外出をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持ってらっしゃる方もおられるが、基本的にはこちらで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙のやり取りはご家族に確認を取ってから行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭い、大きな音、汚れに注意し障子を開けることによって外の風景で季節を感じることが出来る。	居間や居室の窓は、障子戸と2重構造になっており、温かなぬくもりが感じられる。障子を開ければ、自然豊かな山並みの景観が見渡せる。要所に、観葉植物を飾り、壁の飾りものや装飾品にも生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置に配慮し視界をさえぎったり同じテーブルに仲の良い方が座りお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使っていた家具、生活用品を使用いただき、その人に馴染みのある生活空間づくりに努めている。	居室には、クローゼットを備えている。家具類やテレビは自由に持ち込んでいる。敬老会での写真や、大きな文字で見やすい時計、カレンダー、また、生け花などを好みに配置し、窓は障子戸になっており、居心地よく暮らせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活出来るように支援している。		